

# 八幡坂の歩み



長崎県立佐世保北中学校・高等学校  
長崎県佐世保市八幡町6番31号

TEL 0956-22-4105/FAX 0956-22-5361

URL <http://www.news.ed.jp/sasebokita-h/>

第3号 令和5年8月9日発行

## 「北中健児ここに学ぶ」

中学副校長 中里 紀和子

この題名を見てピンと来た人は佐北生として、校舎周辺をよく見ている人だと思います。

これはふくろうの庭の正門から入って右側にひっそりと建っている石碑の銘文です。20年前はこの石碑の前にたくさんの方が集まり、佐世保北中学校の始まりをきっとお祝いしたに違いありません。そして、今年記念すべき佐世保北中創立20周年を迎えました。時間があれば、「北中健児ここに学ぶ」と刻まれた碑をぜひ見に行ってくださいと思います。

ところで、私は縁あって北中20年の2分の1、10年間佐世保北に勤務させてもらっています。最初に教えた生徒はおそらく30歳近くになっているでしょう。佐世保北に10年いると、変化したこと、そうでないことさまざまですが、ここでは以前と変わらないことに焦点を当てて20周年をお祝いしたいと思います。

北中ですと変わらないこと（行事）としては、学年を超えて行う行事があります。

まずは6月の学習方法改善集会。第1回考査を終えた中学1年生が中学2年生や3年生が考査に向けての学習で実践していることを聞いたり、学習上の悩みを聞いたりして助言します。先輩からの助言は1年生にとって大いに役立っているにちがいません。

秋になると、合唱コンクールの練習として朝から中庭や教室、さまざまな場所で歌声が聞こえてきて、佐北の風物詩とも言えます。実行委員やリーダーが中心となり、コンクールが近づいてくるとそれぞれの声が1つになってハーモニーとなり、聞いている側の心も躍ります。3年生の一生懸命な姿を見て、1、2年生は学ぶことがあるかと思えます。コロナ禍で延期や学年別実施などもありましたが継続されている行事であり、今後も大切にしていきたい行事の一つです。今年もさまざまな場所で歌声が聞こえてくるといいな、と思っています。

そして、北辰行。20キロ以上の長距離歩行ですが、学年を超えた縦割りグループとなって、ひたすら歩きます。3年間で3つのコースがありますが、それぞれ歩きがいがあり、長い上り坂や車が入らないような細い道など難所がいくつかあります。そういったところを歩く中で、お手伝いをしている沿道の生徒やPTAの方々の声援、縦割りグループ同士での声かけや助け合いなどで何とか完歩できると、大きな達成感を味わえます。毎年、天候に左右されてしまうことがありますが、こちらも創立当初から続いている行事なので、ぜひ大切にしていきたい行事です。

中学校3年生になると、取組として卒業論文発表があります。総合的な学習の時間や長期休暇などを利用して、自分の興味や関心のあるテーマで、仮説を立て、さまざまな文献を読んだり、実際にフィールドワークに出かけたりして研究内容をまとめ、発表します。この取組は他の県立中学校でも行っており、昨年度は県立中3校で発表会を行いました。長崎東中や諫早高校附属中の生徒さんの卒業論文発表も面白く、本校の17回生が積極的な質問や発表でリードしてくれ、時間があっという間でした。

こういった20年を経ても大切にされている行事は、形式を変えながらもこれからも北中行事として行ってほしいと思います。

さて、私が佐世保北で学んだことは他にもあります。16回生が中学3年生のときは、まさにコロナ禍で限られた時間の中での体育祭練習や文化祭の準備をしてきました。思うように練習ができない中でも力を合わせて下級生をリードし、行事を進めていきました。制限された時間で「今、できること」を最大限に行う、そんなすばらしさがありました。同じ時期を過ごしてきた当時の「小・中・高校生」は困難を乗り越えられる力をきっと学び得たにちがいません。「置かれた場所で、咲きなさい」—私の好きな言葉の一つですが、厳しい状況の中でしっかりと大きな行事を終えることができた中学生の姿を見て、私自身も大いに学ぶことができました。

そしてみなさんご存知の通り、佐世保北中学校は、中高一貫校であり、6年間の前半の3年間です。中学生は日々の生活の中で高校生からたくさん学んでいます。高校生の姿を見て、未来の自分を描いています。部活動などで高校の先輩方の姿を見ている人もいます。今年は、体育祭や文化祭が元の形に戻せるので、高校生の背中を見てさらに「佐北の良さ（熱さ）」を感じ取れることでしょう。また、北辰祭が終わり、特別教室やB棟4階だけが明るく照らされ、補習や自学を頑張っている高校生の姿を見られること、そして春には進路を実現した先輩方の話を聞けることは中高一貫の醍醐味であり、「佐北のすばらしさ」だと思います。

時代とともにたくさんの方が変化する世の中ではありますが、これからも佐世保北の良さやすばらしさも継承して行ってほしいと願っています。

最後になりましたが、北中20周年記念講演をされる満屋裕明先生は、ウイルス学者で1980年代に死の病とされたエイズウイルスの薬を発見され、患者さんに手が入りやすいよう薬の改良をされた方です。まさに日本の、いや世界の最先端の研究をされている佐世保北高校の卒業生です。コロナ禍でがんばってきたみなさんにとって、困難を乗り越え、患者さんのために新薬を開発された先生のお話はきっと共感するところがあることでしょう。講演を聴いて、刺激を受けて発展するみなさんの姿を見るのを楽しみにしたいと思います。次の20年へ。ファイト！佐世保北！！

# 第105回全国高等学校野球選手権記念長崎大会

野球部監督 木寺賢二

6月16日組み合わせ抽選会が行われ、7月9日に日程が決まりました。その後、学校では「対戦相手、決まりましたね」「応援に行きたいです」「応援に行きます」と生徒からの声をもらいました。生徒からそんな声をかけてもらうのはうれしいですね。壮行式でも、選手たちへの声掛けがあたたかく、選手と生徒が一体となって、ゲームに向かっている感じがしました。そんな生徒たちがいる佐世保北はすてきな学校です。ですから、雨による順延、順延で、生徒が応援に来られなくなってしまったことはとても残念でした。とはいえ、生徒の声が後押しとなって、選手たちが頑張れたことは間違いありません。たくさんの声援ありがとうございました。残念ながら、1回戦敗退となりましたが、3年生を中心にさまざまな取り組みを自発的に行ってきたチームでした。3年生の思いをつないで、1・2年生が頑張ってくれると思います。ありがとうございました。



## 吹奏楽コンクール高校の部を終えて

吹奏楽部顧問 森田真美子

去る7月23日、吹奏楽コンクール県大会がアルカスSASEBOで行われました。

熱中症やコロナ、インフルエンザなどの心配をしながら曲の精度を上げていかなければならない毎日の練習に、生徒たちは肉体的にも精神的にも追い込まれながらも、それに打ち勝ち本番のステージに立ってくれました。結果は思うような賞をいただくことができませんでしたが、私はあの日の演奏は「最高のもの」だったと確信しています。一番驚いたのは演奏後の拍手が鳴りやまなかったということです。そして聴いてくださっていた方々から「とても感動した」「素晴らしかった」「涙が出た」などたくさんの賞賛のお言葉をいただき、とても有難く私も自然と涙が溢れてきました。特に3年生には、感謝の気持ちしかありません。あの苦しい中での練習を乗り越え、最後まで吹奏楽を続けてくれたこと、本当にありがとうございました。この76回生のことは一生忘れません。そして最後になりましたが、保護者会の皆さま、いつも生徒たちと私を支えて下さり、励ましの言葉をいただき、時には悩みなども聞いていただき、本当にありがとうございました。そのお陰で今日までやってこれることができました。感謝です。

吹奏楽部の熱い夏が終わりました・・・

## 高校校内球技大会

高校体育科 中村岳博

7月14日（金）は高校球技大会でした。天候が危ぶまれましたが、雨も降らず、比較的涼しい中で競技を実施することができました。3年生にとっては最後の球技大会。男子はソフトボール、女子はバレーボールでハッスル出来たようです。準備から頑張ってくれた体育委員を中心に各クラス一致団結した姿を見ることができました。



## 中学校クラスマッチ

中学校 保健体育科 塩塚 拓

中学校クラスマッチが7月7日（金）に行われました。何日も前から保健体育委員が中心となり、全員で楽しめる競技を一生懸命考えました。大会当日も、生徒の皆さんが開会式から試合の運営まで自分たちの力でいき、成功と失敗の経験を通した一つ大きく成長することができました。次の年度末に行われるクラスマッチがさらにグレードアップしていることと期待しています。



## ALT離任式

7月20日（木）にALTのアンバー先生、ティモシー先生の離任式が行われました。感染症対策のため、zoomでの離任式となりました。アンバー先生は6年間、ティム先生には4年間、楽しく英語を教えていただきました。ありがとうございました。先生方の今後のご活躍をお祈りします。

アンバー先生より

Surprise! It's Amber with one final message. Thank you for all your very kind cards and messages. I was too busy at school to feel all the changes, but after I got home on July 21st I cried a lot. I cried not because I want to leave, but because I have made so many good memories and connections. I know that transitions and change is hard. So let's remember all the good memories we've made. Keep smiling. Keep laughing. And never give up!

これが私、アンバーからの最後のメッセージとは、驚きです。温かい色紙やメッセージをいただき、本当にありがとうございました。学校では慌ただしくて実感がありませんでしたが、7月21日に家に帰ると涙が込み上げてきました。ここを離れたくないというよりも、たくさんの思い出とつながりがあったからです。移り変わりや変化は辛いものですが、だからこそすべての良い思い出を忘れずにいましょう。いつも笑顔で、笑っていきましょう。そしてネバーギブアップ！

ティモシー先生より

佐北の皆さん、改めて、4年間、本当にありがとうございました。楽しい時間を過ごすことができ、皆さんに出会えたことに感謝しています。佐北での時間は決して忘れませんし皆さんもわすれません。離れていてもこれから、皆さんの将来の成功をいっています。NEVER GIVE UP!



## 研究所訪問

7月13日（木）、中学3年生は研究所訪問を行いました。約40名ずつの3班に分かれて、長崎国際大学、長崎総合科学大学、長崎外国語大学にそれぞれ伺いました。長崎国際大学では、国際観光学科、健康栄養学科、社会福祉学科、薬学科の体験プログラムに取り組みました。長崎総合科学大学では、ロボット操作の体験と、地域課題探求学習プログラムに挑戦しました。長崎外国語大学では、ドイツ語と韓国語の授業や、長崎の文化についての授業を体験しました。生徒たちからは、「将来について深く考える良い機会になった」、「今まで抱いていた大学のイメージより親しみを感じた」、「以前よりも大学に対して興味・関心が高まった」などの感想が聞かれました。今回の研究所訪問が、生徒たち一人ひとりの進路意識を高める貴重な機会となりました。



## 中学校平和学習

中学校社会科 白山真希子

中学校では6月29日（木）、八幡体育館にて全学年一斉に佐世保空襲平和学習を行いました。平和学習実行委員が佐世保空襲の説明を行い、絵本「赤いくつ」の読み聞かせをしました。皆が平和について真剣に考えるきっかけを作る時間にしたいと昼休みに集まり、何度も練習を重ねてくれました。

78年前、大雨の隙について約1つの焼夷弾が投下されました。焼夷弾の中には、よく燃える油が充填されており、佐世保は一瞬で火の海となったそうです。1,200人以上の市民が犠牲となり、その後ひと月経っても油や焦げた匂いが街中に漂っていたとのこと。暑く、痛く、苦しい中で最期を迎えた方々の無念さを思うと、今を生きる私たちがいかに恵まれた生活を送れているか、感謝の気持ちが生まれます。

もうすぐ、8月です。本県にとっては未だに多くの人々を苦しめ続けるできごとが起こった日を迎えます。メディアでも特番が放送される機会も増えてきます。平和についての話をぜひ家族でしていただければと願います。

